

# 被爆地の願い受け止め

## 過去最多 本県中学生、広島入り

過去最多  
11市町派遣

### きょう 平和記念式典参列

とちぎ  
平和を考える  
ヒロシマから

広島市の「原爆の日」前日の5日、平和記念式典へ参列する予定の本県の中学生が續々と広島に入った。原



折り鶴を手に原爆ドームの説明を受けるさくら市の中学生たち=5日午後、広島市

よると、今年の本県自治体からの中学生派遣は、初参加となるさくらを含め、小山や下野、栃木など過去最多の11市町。引率教員や職員を合わせて約220人が6日の式典で原爆死没者に追悼の祈りをささげる。

さくら市から派遣された中学生6人は午後3時ごろ、広島市中区の平和記念公園へ到着。今年最高の36・7度を記録した猛暑の市内で、噴き出す汗を拭いながら原爆ドームや広島平和記念資料館などを見学した。

喜連川中3年の高橋奈々さん(14)は同資料館で焼け焦げた学生服や当時の写真をじっと見詰め、「二度と過ちを繰り返してはならないと強く感じた」と口元を引き締めた。

初めて広島を訪れた氏家中3年の本田稯さん(15)は「駅に着いた時、被爆地がこれほどの復興を遂げたことに驚いた。式典を通じて平和についてしっかりと学びたい」と盛んにメモを取っていた。

爆投下から72年。記憶の風化が懸念される中、原爆ドームや原爆慰霊碑などを見学し被爆の実相や核兵器廃絶への願いを学んでいる。広島市市民活動推進課に

(文・写真 佐野恵)